

一橋大学大学院社会学研究科研究科内センター

平成 29 年度活動報告書・平成 30 年度事業計画概要

センター	名称:ジェンダー社会科学研究センター ウェブサイト: http://gender.soc.hit-u.ac.jp/ 学内活動拠点・同電話番号:貴堂研究室 別館2階 042 (580) 8492
報告者 (センター代表者)	氏名: 坂 なつこ 電子メール: sakan.mol@r.hit-u.ac.jp
報告書提出年月日	2018 年 4 月 4 日

平成 29 年度活動報告

社会学研究科内センター規程「(別表)研究科内センター設立申請書作成時の留意点」の内容も踏まえ、以下の諸点につき項目別に具体的かつ明確に記述してください。記載は 10.5 ポイントで行い、必要に応じて欄の仕切りを上下に調整し、最大でも3頁以内に全体を収めてください。図表を含める場合も、この範囲に収めてください。

1. 組織構成員の異動と理由説明

2017年度は、代表(坂なつこ)、教育部門総括1名(洪郁如)、研究部門総括4名(伊藤るり、貴堂嘉之、太田美幸、森千香子)、総務・財務部門総括1名(佐藤文香)と、共同推進者20名(井川ちとせ、大河内泰樹、尾崎正峰、加藤圭木、木本喜美子、小井土彰宏、坂元ひろ子、ソニア・デール、中野聡、山田哲也、Chris Ahmadjian、越智博美、河野真太郎、竹内幹、横山泉、イ・ヨンスク、井上間従文、中井亜佐子、長塚真琴、柘植道子)の組織構成員で活動を行った。

2. 当初事業計画に照らした活動実績

2.1 教育実績

ジェンダー教育プログラム(GenEP)部門では、2007年度より全学的なプログラムを提供してきたが、2017年度は基幹科目群として学部9科目、大学院2科目、連携科目群として学部30科目、大学院6科目、合計47科目を提供した。履修者数は学部生3,829名、院生100名、総計延べ3,929名であった。運営は安定しているが、後任補充ができていないため科目・履修者数はともにやや減少傾向にあり、特に大学院科目の充実が課題であると言える。また、2014年～2017年度の先端課題研究14「ジェンダー研究の過去・現在・未来 一女性学・ジェンダー研究のパイオニアに対する聞き取り調査を中心に」は、その成果として人文書院より9月に『ジェンダー研究を継承する』を刊行し、参加者の大学院生に貴重な執筆機会を与えることができた。

2.2 研究実績

本センター構成員の個々の研究実績は多岐にわたるため、代表および部門総括の業績の一部を掲載する。

坂なつこ, 2017, 「スポーツと『男性性の保護区』」『一橋大学スポーツ研究』vol. 36

佐藤文香・伊藤るり編, 2017, 『ジェンダー研究を継承する』人文書院

佐藤文香, 2018, 「戦争と性暴力——語りの正統性をめぐって」上野千鶴子・蘭信三・平井和子編『戦争と性暴力の比較史へ向けて』岩波書店

貴堂嘉之, 2017, 「下からのグローバル・ヒストリーに向けて」歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題 第一巻 新自由主義時代の歴史学』績文堂出版

伊藤るり, 2017, 「共和国的統合コンセンサスへの挑戦とその帰結——サルコジ政権下の「選択的移民」政策」小井土彰宏編『移民受入の国際社会学』名古屋大学出版会

太田美幸, 2017, 「性の多様性をめぐる教育政策研究の課題」『日本教育政策学会年報』通巻 24 号

森千香子, 2017, 「ホームグロウン・テロリズム」の社会的背景——フランスにおけるマイノリティ差別とセグレーション『HQ』53 号

2.3 外部機関等との連携および社会貢献の実績

【外部機関等との連携】

外部講師を招聘し、下記の講演会および刊行記念ライブトークを開催した。

①公開レクチャー・シリーズ(第39回)2017年5月12日

講師:橋本恭子、タイトル「台湾の同志(LGBT)運動と文学—東アジアの基層文化と性のあり方を考える」

司会:洪郁如(国内交流セミナー(社)) 参加者:25名

②公開レクチャー・シリーズ(第40回)2017年6月30日

講師:上間陽子、タイトル「『裸足で逃げる』の若者たちの生育環境・ネットワーク・暮らすこと」

司会:山田哲也(国際交流セミナー(社)) 参加者:162名

③公開レクチャー・シリーズ(第41回)2018年1月19日

講師:伊藤るり、タイトル「伊藤るり 国際社会学とジェンダー研究の未来——伊藤るりさんとともに考える」

司会:森千香子・貴堂嘉之・小井土彰弘 参加者:114名

④刊行記念ライブトーク「ジェンダー研究を継承する」2017年12月22日(金)

司会:森千香子 参加者144名

【社会貢献】

公開レクチャー・シリーズは、毎回、学会や市民ネットワークを通じた広報を行っており、学外からの研究者および市民にも開かれたイベントとして広く社会貢献に役立っている。2017年度は特に100名を超える参加者を集めることが多く、本センターの開催するイベントに対し学内外から高い期待が寄せられている。

2.4 外部資金獲得実績

なし

3. 平成30年度事業計画概要

平成30年度は、下記の3点を行うこととする。

(1)ジェンダー教育プログラムの運営を行う。

(2)共同推進者の協力を仰ぎつつ、公開レクチャー・シリーズを企画・実施する。

(3)社会学研究科の改組に伴い、CGraSSの安定した組織運営体制の構築に向けて努力する。

4. 平成30年度における組織改廃計画

代表および各部門総括は研究部門総括の伊藤るり、太田美幸を除き今年度も継続する(2年任期)。また、共同推進者として経済学研究科から森口千晶が加わることとなった。

5. その他特記事項(研究科への要望等は本欄には書かず、別途研究科長にご相談ください。)